

Annual Report 2015

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

年報 2015



京都橘大学

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 8

認定看護師教育課程 9

看護キャリア開発事業 13

看護研究支援事業 14

たちばなSIM事業 17

通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座 21

資料 23

資料1 2015年度「看護研究支援」研修ごあんない 24

資料2 『たちばなSIM 2015』のご案内 26

資料3 2015年度 看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座 27

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

梶谷佳子

京都橘大学看護教育研修センターの事業は、2007年に認定看護師教育課程設置によって始まりました。皮膚・排泄ケア分野では2015年度で241名の修了生を輩出しています。

本センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行い、地域に貢献する看護職者を育成する」ことを目指し、活動を継続してきました。看護専門職の継続教育として、看護研究支援、看護実践力の向上を目指すたちばなSIMの開催、通信教育課程看護学コース学修レポート作成講座など、看護職のキャリアを開発するためのプログラムを企画・運営して参りました。活動実績も増え、今後は事業評価を行い、効果的なプログラムの開発を行う段階にきています。

京都橘大学の設置母体である京都橘学園では2014年度から「マスタープラン2022」が始まりました。社会のグローバル化と成熟化が進むなか、社会から学校に寄せられる期待はますます大きく、複雑になっています。このような背景において、2022年までの将来像と実行プランが策定されました。このプランを「マスタープラン2022」と言います。

本センター事業を、このマスタープランに照らしてみると、地域連携の一つに当たると言えます。学部教育では毎年約100名の看護職を輩出しています。卒業後も知識・技術を高められるよう、一人一人が学び続けられる環境や機会を作ることが重要だと考えます。その一助となれるようなプログラムを提供していきたいと考えています。また、本学卒業生のみならず、地域で活躍される看護職の方々の要請に応えられるような学習環境が整えられればと願っております。このような形で教育や研究のフィールドである臨床の場を提供してくださっている方々への恩返しができればと考えます。

看護職としてのキャリア開発のために、本センターを大いに活用して頂ければ幸いです。今後も地域に拓かれた大学に附置するセンターとしての役割を意識しつつ活動の計画・実施・評価を行っていきたいと考えます。

本年報は、本センターの活動報告をまとめたものです。活動が一人よがりとなりませんよう、忌憚のないご意見、ご助言をいただきますようお願いいたします。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認

開催時期	内 容
2013年度 12月 19日	2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改定内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認
12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告
12月 10日	2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会
1月	16日	第9回看護キャリア開発委員会
2月	19日	第10回看護キャリア開発委員会
3月	19日	第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会

2014年	1月	22日	第8回看護キャリア開発委員会
-------	----	-----	----------------

2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会

2015年	1月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
	3月	5日	第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

4月 15日 第1回看護キャリア開発委員会

5月 27日 第2回看護キャリア開発委員会

7月 6日 第3回看護キャリア開発委員会

9月 10日 第4回看護キャリア開発委員会

10月 14日 第5回看護キャリア開発委員会

11月 27日 第6回看護キャリア開発委員会

2016年 1月 6日 第7回看護キャリア開発委員会

2月 10日 第8回看護キャリア開発委員会

組織

2015年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
判 澤 恵	京都橘大学看護教育研修センター	准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
宇 野 育 江	京都橘大学看護教育研修センター	講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
野 村 陽 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授
阿 部 祝 子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
伊 藤 恵美子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
神 崎 光 子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授

看護キャリア開発委員会

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
阿 部 祝 子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
遠 藤 俊 子	京都橘大学看護学部長	
河 原 宣 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授（看護学科主任）
野 村 陽 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授
奥 野 信 行	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
植 村 由美子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
野 島 敬 祐	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程研修について

2015年度認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア分野では、2.4倍の受験倍率を経た30名が入学した。倍率が上昇している理由として現在教育機関は全国で6機関と最盛期に比し半数であることに加えて、皮膚・排泄ケア分野は診療報酬加算がつく実践内容が多いという点も施設にとっての一要因と推測している。受験者は関東から沖縄まで範囲が拡大している。遠方からの受験者でも合格した場合は京都で学ぶ機会を選択してくれるようになった。

本課程は2015年5月20日に始まり12月18日を以って予定通りに約8か月の研修を終えた。研修は実践の基盤となる講義と技術を磨く演習を主として実施している。これらの各科目修了試験を経て、座学で学んだ知識と看護ケアの統合を図る臨地実習を行った。しかし、臨地実習においては論理的な思考の整理に基づいて実践することがなかなか困難な研修生が2名であった。自己退学者の1名は、認定看護師としての自信のなさを実践に対する不安増強に陥り実習継続が不可能となり退学した。他1名は看護実践において論理的思考ができず、指導者からの再三の指導にも関わらず皮膚・排泄ケア認定看護師としての看護実践に至らなかった。話し合いの結果本人も施設も納得し退学した。最終的に28名の修了となった。

実習指導の難しさを実感する出来事である。

2. 入学説明会実施

昨年に続き2回目の開催で、2016年度受験を目指している人たちを対象に7月に実施した。当日は台風の余波が残っていたが、申し込み28名中22名が参加した。参加できなかった6名のうち3名には希望に添い後日個別対応とした。研修中の演習見学と応募要項記載上の注意点など説明した。2016年度の入学

試験合格者のうち2名の辞退者が見られたがいずれも遠方の人で勤務施設から通学可能な機関の選択が理由であった。

3. 修了者に対するフォローアップセミナーについて

2015年度は該当年度ではないため開催していない。

4. 教員による共同研究について（京都橘大学倫理審査承認を得た）

排尿モデル（仮）を用いたオムツ装着技術の研究の結果をまとめて、第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会において宇野教員が口演発表した。

このモデルは株式会社京都科学において製品化、2015年9月に発売された。

5. 認定審査に対するフォローアップ研修について

日本看護協会の認定審査は2016年5月に実施予定である。第9期修了生（2015年度）の認定審査全員合格に向けて、フォローアップ研修を実施予定（2月、3月、4月）である。

フォローアップ研修では、実践に必要な知識を確実なものとするをねらいとして、修了生が相互に問題を作成、解答と解説を行い、根拠を明確にして応用できるように取り組んでいる。研修終了が12月であるため、認定審査までの5か月間臨床での確実な知識習得とモチベーションを維持し、自身の目標を再確認できるようにしている。

6. 教員の専門領域の活動について

【判澤 恵】

1) 宇野教員の共同演者として上記4.の研究に

ついて口演発表に参加した。

- 2) 以下の関連学術集會に参加し、最新の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第32回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集會
 - ②第11回日本フットケア学会+第5回日本下肢救済・足病学会合同学術集會
 - ③第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（査読委員・評議委員）
 - ④第17回日本褥瘡学会学術集會（研修生は最終試験も近かったため任意参加）
評議委員及び日本褥瘡学会危機管理ネットワーク近畿褥瘡地方會京都府危機管理連絡委員拝命
 - ⑤日本褥瘡学会近畿地方會において2017年度会長の任を仰せつかり、準備作業を開始した。
- 3) ③の学会においてランチョンセミナーで「2025年問題を見据えたストーマケアと装具選択」について社会保険研修センター1期生のWOCと共同講演した。
- 4) 専門書發行会社からの依頼で「スキナーケアの実際とケア」について宇野教員と共同で原稿を執筆した。
- 5) 介護職員・一般看護師対象の企業セミナーにて「2025年問題を見据えたストーマケアと装具選択」について講演した（2015年12月）
- 6) 民医連中央病院において、3回のストーマ外来を実施した。

【宇野 育江】

- 1) 判澤教員と共同で上記4.の研究活動を行った。
- 2) 以下の関連学術集會に参加し、最新の知見や情報収集を行い研修教育に活用した
 - ①第32回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集會
 - ②第28回老年泌尿器科学会学術集會
 - ③第24回日本創傷・オストミー・失禁管理学会参加+口演発表（研修の一環として研修生は全員参加した）
 - ④第17回日本褥瘡学会学術集會
 - ⑤2017年3月開催の第14回日本褥瘡学会近畿地方會において事務局担当となる
- 3) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会京都滋賀ブロック ストーマリハビリテーション講習会実行委員 実習インストラクター担当
- 4) 一般看護職対象の医療系出版社主催セミナーにおいて「泌尿器科術後の創傷管理」について講演した（2015年7月、8月）
- 5) 看護系雑誌において「スキナーケアの実際とケア」について判澤教員と共同執筆した
- 6) 日本コンチネンス協會 電話相談員として適時電話相談に対応した

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア分野 認定看護師 判澤 恵

看護キャリア開発事業

■看護研究支援事業 14

■たちばなSIM事業 17

■通信教育課程看護学コース

学修成果レポート作成サポート講座 21

看護キャリア開発事業

■看護研究支援事業

『看護研究支援』事業は、地域の看護職支援を目的に2012年度から開催した。この事業は、研究の基本を〔ベーシックコース〕、院内研究に取り組むための〔プラクティスコース〕、それをより充実させて院外の学会発表や論文投稿をめざす〔アドバンスコース〕を設定し、レベルに応じた支援プログラムを展開している。これらのコースに加え、2014年度からは、臨床現場で看護研究を指導する立場の看護職を対象として〔院内看護研究指導者コース〕を開始した。

表1 各コースの受講者数

	受講タイプ	1) 現場における研究	2) 研究テーマの設定	3) 文献検索	4) 文献講読	5) 文献講読	6) 研究倫理と研究計画書	7) 研究のまとめ方、公表
ベーシックコース	学内	3名	2名	2名	3名	2名	2名	2名
	講師派遣(1施設)		33名				33名	
院内看護研究指導者コース		5名						

3. 受講の目的、理解状況

以下、受講時のアンケート調査をもとに、受講の目的、理解できたこと、理解しにくかったこと、受講の感想をまとめた。受講者数が少ないため、回答数は掲載しない。

(1) 受講の目的

〔ベーシックコース〕学内タイプの受講目的は、「看護研究の担当となった」、「看護研究を指導しなければならない」ため、「看護研究の基本を学ぶ」、また「学校で看護研究の授業を担当しているため、内容を確認したい」であった。講師派遣タイプの受講目的は、看護師長会の教育として「看護研究を指導しなければならない」「スタッフが主体的に看護研究に取り組むよう動機づけする」目的がほとんどで、そのた

1. プログラムの概要

各コースのプログラムは、資料1の通りである。

2. 各コースの受講者数

受講者数は表1のように、〔ベーシックコース〕の学内タイプの受講者は2～3名で、そのうちすべて受講したのは2名である。講師派遣タイプは、1施設で2) 研究テーマの設定と6) 研究倫理と研究計画書の2項目の希望であった。〔プラクティスコース〕と〔アドバンスコース〕の受講者はなしであった。

めに「基本を学ぶ」ことであった。〔院内看護研究指導者コース〕は、看護研究担当の副看護部長、教育担当看護師長、指導の立場になるという受講者で、「指導の一助とする」のため、「知識不足の補充」、「指導方法」、「研究テーマ設定の助言」を学ぶことを受講目的としていた。

(2) 研修で理解できたこと

① 〔ベーシックコース〕(表2)、〔院内看護研究指導者コース〕(表3)のように、それぞれのコースにおける学習の重要ポイントがあげられた。

(3) 研修で理解しにくかったこと

〔ベーシックコース〕(表4)では、実際に活かすところまでの理解について不安を抱き、実際に文献講読をしたことにより図表の読み取りについてのむず

表2 〔ベーシックコース〕で理解できたこと

学習項目	理解できたこと
1) 現場における研究	看護研究を臨床レベルに根付かせるための示唆を得た “ささやかな新しさを大切に” 実践の中からテーマを探せそう
2) 研究テーマの設定	疑問が大切。テーマを先に決め、やりやすい研究にしようは間違っていた 研究疑問に応じて研究方法があり、計画的に実施していく必要がある 臨床現場の日常について意識し、そこから疑問を導いていく
3) 文献検索	文献の検索方法、信頼できる文献、文献はたくさん読む 文献の意義、文献の絞り込み方
4) 文献講読	批判と否定の違い クリティークの視点や必要な姿勢について学んだ
5) 文献講読	クリティークの体験から自分が研究する時に何を考えるべきか少し理解できた 表の見方、クリティークの方法
6) 研究倫理と研究計画書	研究対象者を第一に擁護すること、看護研究倫理を詳しく聞くことができた 研究倫理審査の意義、あり方を学んだ 研究計画書の形式にとらわれていた。研究テーマから方法を考え、伝わるように書く
7) 研究のまとめ方、公表	口説・示説の利点欠点、プレゼンテーションのポイント 論文の構成、プレゼンテーションのマナー

表3 〔院内看護研究指導者コース〕で理解できたこと

理解できたこと
ポジティブ・フィードバックをすることで、なるべく達成感につなげる 明らかにしたいことは何かを頭に置いてかわる 研究に何を求めるのかを改めて考える機会になった 研究テーマの決定

表4 〔ベーシックコース〕で理解しにくかったこと

学習項目	理解しにくかったこと
2) 研究テーマの設定	量的・質的研究の違いについて、実際に活かすところまではわからなかった 時間的に内容が盛りだくさんだった
5) 文献講読	表内の数値（標準偏差）の読み方が難しい
6) 研究倫理と研究計画書	時間的に内容が盛りだくさんだった

かしさを感じていた。また、内容が盛りだくさんであることがあげられた。〔院内看護研究指導者コース〕では、実際につなげられるか、実際に自施設ではどうか考えを巡らせるレベルでの不安が残った。

（４）受講の感想

〔ベーシックコース〕（表5）では、看護研究につい

て興味をもてたり、日々の看護実践の言語化、研究倫理審査の理解などがあげられるとともに、受講者が少数であったことで各自に応じた指導ができたことがあげられた。〔院内看護研究指導者コース〕では、他施設の受講者と意見交換できたこと、あらためて自己の役割として何をするかを考える機会になったことがあげられた。

表5 「ベーシックコース」の感想

学習項目	感想
1) 現場における研究	日々の看護実践に自分たちで意味や価値をつけていくと説明して研究に取り組みたい。希望が持てた もう少し長く聞きたかった
2) 研究テーマの設	今まで一番わかりやすかった。たくさんメモができた 研究に対して少し理解が深まり、興味が持てたのでよかった 日々いろいろ疑問に思っているのに言語化できないのは問題だと感じた
3) 文献検索	各自が質問でき文献検索できたので良かった
4) 文献講読	ポイントがあってわかりやすかった
6) 研究倫理と研究計画書	時間があれば実際に書くところやすかった 研究倫理委員として、あらためて研究計画書について学ぶことができた 臨床でできる研究を念頭に研究倫理の審査、指導したい
7) 研究のまとめ方、公表	わかりやすかった

表6 「院内看護研究指導者コース」の感想

感想
管理職が多く、研究メンバーに直接支援する立場の人の意見を聞きたかった 研究者とともに「何を」「なぜ」など確認しながら焦らずかわっていく。研究ができるような気がしている 内容は理解できたが、指導につなげられるよう継続して自主学習が必要である 他施設の方と意見交換できたのはよかった。自分の役割として何ができるのか、どうサポートしていくのか考えるきっかけができた

4. まとめ

〔ベーシックコース〕の学内タイプの受講者が2～3名、講師派遣タイプも1施設にとどまった。〔ベーシックコース〕の目的は、研究に取り組むための基本の確認であるが、3-（1）のように研究の指導・支援の役割を担うために確認を目的とした受講であった。3-（4）の感想からもわかるように、これまでに研究に関する研修を何度か受講している状況である。研究ができるようになるためには、看護技術と同じように専門の『技』が必要であるが、机上の学習・確認だけでは研究の実践力にはつながらない。したがって、〔ベーシックコース〕の受講者を実際の研究プロセスをサポートする〔プラクティスコース〕の受講を促す必要があろう。しかし、臨床

現場での研究は、限られた時間（期間）、費用を考慮しなければならない。さらに、〔ベーシックコース〕の目的に相応する受講者の確保のために、あらためてその目的の発信・周知が必要であらう。

〔院内看護研究指導者コース〕では、他施設との意見交換ができることが他にない研修である。3-（4）の感想にあげられたことだけでなく、各施設の看護研究に対する考え方などが紹介され、情報共有がなされた。受講者が少なく1グループでの議論となったが、複数グループが作ればより多くの施設の情報が得られる。このような機会が提供できる研修であることをPRすることも、受講者の確保につながるであらう。

看護学部看護学科 准教授 阿部 祝子

■たちばなSIM事業

京都橘大学看護学部では、2012 年度から卒業生に貢献するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした教育セミナー『たちばなSIM』を開催している。今年で4年目となる『たちばなSIM』には、毎年、様々な施設で働いている卒業生が参加してくれている。教員にとっても、卒業生が臨床においてどのような「人によりそう看護」を実践しているのか、そこでの悩みや喜びも含めた生の声を聴ける貴重な機会にもなっている。

『たちばなSIM』では、参加する人すべてが互いに対等な関係、つまり、教え手の教員も学び手の卒

業生も、「人によりそう看護を創造し、実践する」仲間として、その場に集うような【よりそう看護の学習コミュニティ】であること、「気軽に安心して学べる」「何でも訊ける（聴ける）」というような【親和的空間 affinity space】であること、そして、臨床での看護実践に即した【良質な学習経験ができる場】であることを大切にしている。

教育プログラムの内容は、「循環機能のフィジカルアセスメントと看護」、「呼吸機能のフィジカルアセスメントと看護」、「人工呼吸器装着中の患者のフィジカルアセスメントと看護」などを開催してい

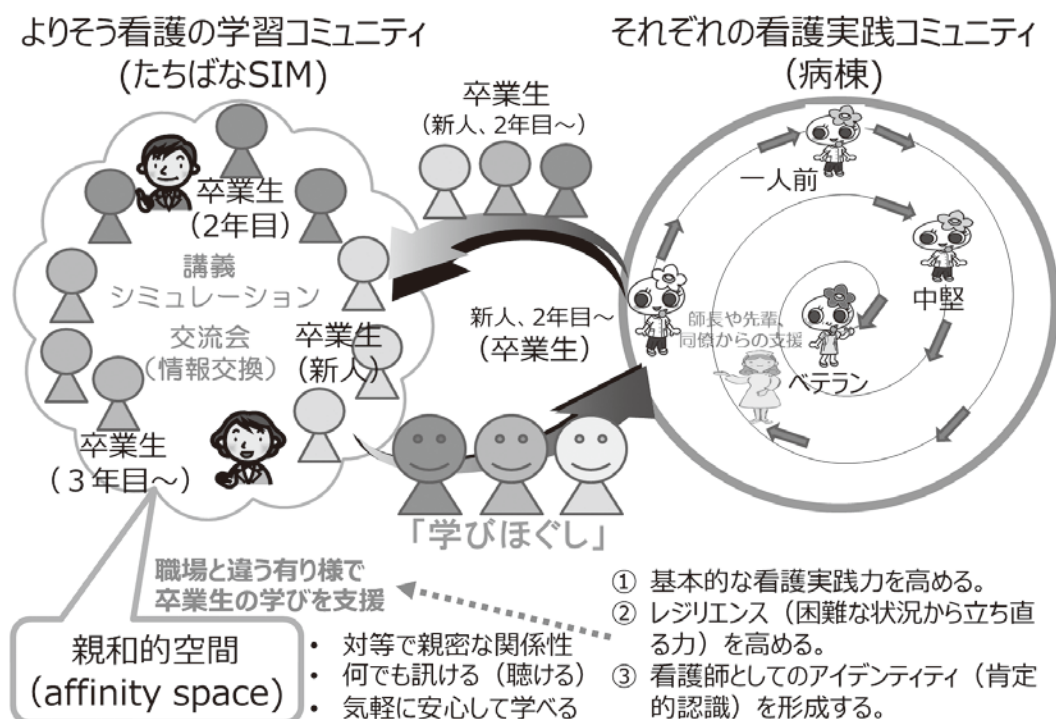


図1 たちばなSIMでの学びのイメージ

表1 2015年度 事業プログラム

回	開催日時	テーマ・内容	担当	場所	受講人数
1	5/23 (土) 10:00～ 16:00	循環機能のフィジカルアセスメントと看護 1) 講義・演習: 不整脈と心電図の判読 2) 講義・演習: 心不全患者のフィジカルアセスメントと看護	・穴吹, 奥野, 野島, 鈴木, 牧野, 岩島, 加藤 (京都橘大学) ・浅野 (京都橘大学大学院博士前期課程) ・川口, 吉川 (京都第二赤十字病院)	清優館 第1実習室 第3実習室	9名 1年目: 8名 4年目: 1名
2	6/20 (土) 10:00～ 16:00	呼吸機能のフィジカルアセスメントと看護 1) 講義: 呼吸の解剖生理・フィジカルアセスメント 2) 演習: 呼吸音聴取トレーニング 3) 講義: 呼吸困難をきたす疾患 4) 演習: 呼吸困難を訴える患者のフィジカルアセスメントと対応	・野島, 奥野, 穴吹, 内田, 加藤, 木村 (京都橘大学) ・浅野 (京都橘大学大学院博士前期課程) ・梅西, 家原 (京都第二赤十字病院)	清優館 第1実習室 第3実習室	15名 1年目: 9名 2年目: 6名
3	7/26 (日) 10:00～ 16:00	人工呼吸器装着中の患者のフィジカルアセスメントと看護 1) 講義: 人工呼吸器装着中の患者の特徴と看護 2) 講義・演習: 人工呼吸器の特徴と操作、モニタリング、トラブルシューティング 3) 講義・演習: 人工呼吸器装着患者のフィジカルアセスメント	・奥野, 野島, 穴吹, 鈴木 (京都橘大学) ・平井 (前京都橘大学) ・浅野 (京都橘大学大学院博士前期課程) ・梅西, 吉川 (京都第二赤十字病院) ・アイ・エム・アイ株式会社	清優館 第1実習室 第3実習室	14名 1年目: 10名 2年目: 3名 4年目: 1名

る。実施時間は10:00～16:00、各1回の定員は20名としている。講師は、全ての回において看護学部の教員だけでなく、昨年度に引き続き京都第二赤十字病院の看護師2名も担当している。臨床の看護師を加える事によって、効果的かつ実践的な教育プログラムの開発、実施が可能になると考えたからである。また、第3回の「人工呼吸器装着中の患者のフィジカルアセスメントと看護」では、アイ・エム・アイ株式会社のスタッフが、講師やアドバイザーとして参加している。本スタッフの協力により、人工呼吸器を装着した患者シミュレータを用いたシミュレーションが可能になっている。

『たちばなSIM』における教育プログラムの特徴は、特定の健康課題を抱える対象への看護に必要な

基本的知識や技術についての理解を深めつつ、その対象の状況に応じた看護活動のためのアセスメントやリフレクションを展開する力を養うことにある。そのため、教育プログラムは、講義→シミュレーシ



図2 講義の様子

ン演習→リフレクション（振り返り）という順序性でデザインしている。

例えば、第1回では、「循環機能のフィジカルアセスメント」をテーマとして、循環機能とフィジカルアセスメントに関する講義、心電図の判読、心不全患者の事例を用いたシミュレーション演習等について、第2回では、「呼吸機能のフィジカルアセスメント」をテーマとして、基礎的な呼吸機能に関する講義、呼吸音聴取のタスクトレーニング、呼吸困難感を訴える患者の事例を用いたシミュレーション演習を企画、実施した。シミュレーション演習では、講義で学んだフィジカルアセスメントに関わる知識や技術を用いて、事例患者のフィジカルアセスメントを実際に行ってもらっている。第3回では、「人工呼吸器装着中の患者のフィジカルアセスメントと看護」をテーマとして、人工呼吸管理が必要な患者の特徴と合併症、人工呼吸器のトラブルシューティング等についての講義と机上演習の後、高機能シミュレータを模擬患者としたシミュレーションにおいて、フィジカルアセスメントやそれに基づく対応を実行してもらっている。そこでは、事前に講義で学んだ知識や技術を普段の自分の看護に落とし込みながら、遂行しているのであろう。卒業生の模擬患者に対する優しく温かみのある言葉かけや態度、注意深く丁寧に身体に触れていく様子などからは、臨床において「人によりそう看護」をどのように具現化しているのかを垣間見ることができる。

シミュレーションの実施後は、4～5人程度のグループになり、模擬患者に対する自己のフィジカルアセスメントとその対応についてのリフレクションを行っている。そこでは、自由に意見が交わしやすい雰囲気や教員が醸し出しながら進めて行く。「私はこう思う」「僕はこうかな」「このように対応した方が良かったのは…」と、患者は今のような



図3 シミュレーション演習の様子



図4 シミュレーションの設定の様子

状態にあるのか、そのように判断した根拠は何か、なぜ、この対応、援助が最適であると判断したのか、自分なりの考えを、身体的データだけでなく、患者の入院前の生活状況や入院時の訴えも踏まえて提示する者もいる。また、「もっとこうすれば良かった」「これは良かった」と自分や他の受講生の看護行為の失敗や成功経験を2回目のシミュレーションにつなげている。

また、参加した卒業生と教員が軽食を取りながら気軽に話す「交流会」も実施している。ここでは、それぞれが近況を伝えあったり、臨床での看護や本日の学習内容に関する質問や相談を、例えば専門領



図5 演習後のリフレクションの様子

域の教員や人工呼吸器業者のスタッフ、あるいは仲間や先輩に質問をしたりしている。参加した卒業生に対するアンケート調査では、「たちばなSIMでは、学びたいことが学べたか」そして、「たちばなSIMは学びやすい環境であったか」という設問にたいして全員が「そう思う」と回答していた。その他、自由記載では、「知っている先生や卒業生と一緒に基本的なことから学べて質問もしやすかった」「先生方が学生の時と変わらず熱心に教えて下さり、学ぶことが楽しかった」「実践的な内容で高性能シミュレータでのロールプレイングはリアリティがあり、すぐに臨床で活用できる」「4月から看護師として働き始めて患者さんの状態把握の難しさを痛感していたが、どのように観て判断したら良いのかがわかり、明日から出来そうだと自信がついた」「病院でも勉

強会はあるが基本的な知識（解剖生理、病態など）を振り返ることはあまりない。この研修は一から振り返ってくれるので、どのポイントの知識が曖昧なのかを発見できた」という意見が寄せられている。このような学舎「京都橘大学」での学びの経験は、卒業生が日々の看護に必要な知識や技術、態度を再確認し、基本的な看護実践力を高めていくことはもちろん、様々な施設で働く仲間との交流を通して各自の看護を見つめ直す契機にもなる。それは、看護師としての自己への肯定感や自信につながり、臨床での様々な困難に向き合い、解決に取り組んでいく原動力となる。その意味で『たちばなSIM』は、看護教育の専門機関としての教育力を活かし、所属施設とは異なるあり様で卒業生の学びを保障する取り組みとして意義深いものであると考えている。

看護学部看護学科 准教授 奥野 信行

[文献]

- ・ 荻宿 俊文・佐伯 胖・高木 光太郎編著 (2013)：まなびほぐしのデザイン；ワークショップと学び、東京大学出版会
- ・ Gee, J. P. (2005)：Semiotic Social Spaces and Affinity Spaces' in Barton, D. and Tusting, K. (ed.) Beyond Communities of Practice, Cambridge University Press, Cambridge.

■通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座

『看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座』は、本学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修で単位取得した学生が、大学評価・学位授与機構に学位申請のために提出する学修成果レポート作成のスタートを支援するための研修として、2013年度から開始した。2013年度は個人指導としたが、ゴールの不明瞭さ、教員への負担があり、2014年度からグループ演習を中心に展開した。また、2015年度は初めて学外からの非常勤講師を依頼した。

1. プログラムの概要

本講座のプログラムは、資料3の通りである。

2. 受講者数

受講者数は表1のように、A日程は12名で3グループ編成、B日程は6名で2グループ編成とした。

表1 受講者数

日程	Step1	Step2	グループ数
A日程	12名	12名	3
B日程	6名	6名	2

3. 受講の目的、理解状況

以下、受講時のアンケート調査をもとに、受講の目的、研修で学んだこと・考えたこと、受講した感

想をまとめた。

(1) 受講の目的

受講目的は、表2のようにStep1では「レポートの書き方がわからない、学んだことがない」、「レポートのテーマを見つけない」が多く、Step2では「テーマ、レポートの方向性を確認したい」が多く、「グループワークで助言がほしい」「レポートの書き方を学びたい」があげられた。受講者は専門学校卒業者が多いため、レポート作成の基本の学習機会がなく、Step1もStep2でもレポートの書き方が目的としてあげられた。Step1ではレポートのテーマの絞り込み、Step2ではレポートのアウトラインの作成をゴールとして設定したことで、受講者がそれにむけて取り組みがなされたことがわかる。

(2) 研修で学んだこと・考えたこと

学びと考えたこととしてあげられたのは、表3のように、Step1では「レポート作成の基本」「テーマの方向性が見えた」「他者の意見が聞けたことがよかった」が多くあげられ、Step2では「他者との意見交換により方向性が深まり、幅が広がった」「具体的な方向性、アウトラインがわかった」が多くあげられた。Step1、Step2ともにあげられたのが、他者との意見交換による効果であった。

表2 受講目的

Step1		Step2	
受講目的	回答数	受講目的	回答数
レポートの書き方がわからない、学んだことがない	10	テーマ、レポートの方向性を確認したい	8
レポートのテーマを見つけない	8	グループワークで助言がほしい	3
1人ではレポート作成に不安があった	2	レポートの書き方を学びたい	3
		1日ではわからないと思った	1
		事例展開上の倫理的配慮を確認したい	1

表3 研修で学んだこと・考えたこと

Step1		Step2	
学び・考えたこと	回答数	学び・考えたこと	回答数
レポート作成の基本を学んだ	10	他者と意見交換し方向性が深められ、幅が広がった	7
テーマの方向性が見えた	8	具体的な方向性、アウトラインがわかった	6
他者の意見が聞けて良かった	5	具体的なレポートの書き方がわかった	3
やらないといけないこと（イメージ）が見えてきた	3	レポート内容の不足と膨らませ方がわかった	3
文章の構成、書き方のポイントが学べた	3	テーマの絞り込みがわかった	2
文献検索の方法も具体的に教えてもらった	2	看護の視点を入れるよう助言があった	2
e-learningでは得られない学びがあった	1	自分の行動、思考を言葉で表現すること	1

(3) 受講した感想

受講した感想は、表4のように、Step1、Step2ともに「グループワークでのディスカッション」に好感を得ている。さらに、「Step1とStep2を通して受講してよかった」「わかりやすい指導」などがあげられた。一方、「リーズナブルな受講料」、「講義を多くしてほしい」「グループワーク環境」など、開催側の検討課題もあげられた。

4. まとめ

受講目的は、3-(1)のように専門学校卒業者が多く、学習機会がなかったレポートの書き方やレポートテーマの設定に関するものが多かった。受講

しての学び・考えたことから、3-(2)のようにStep1、Step2で設定したゴールに概ね到達したといえる。また、3-(3)のように仲間（同志）や教員とのディスカッション、出会いがあげられ、通信教育のe-learningでは得られないものを学び、学士申請の動機づけの強化につながったと考えられる。年々看護学コース科目等履修で単位取得学生の増加により、本講座の受講者数の増加が想定されたが、A日程、B日程合計20名余の受講者であった。科目等履修で単位取得できた学生の伸び率は低く、本講座の受講生も20～30名程度が続くと想定し、教育環境の整備を検討する必要がある。

看護学部看護学科 准教授 阿部 祝子

表2 受講目的

Step1		Step2	
感想	回答数	感想	回答数
グループワークで同志に出会えてよかった	3	仲間や先生とディスカッションできてよかった	3
自分の考えを伝えることで整理でき、イメージすることができた	3	Step1-2を通して受講してよかった	4
とてもわかりやすく、的確で、丁寧な指導だった	2	とてもわかりやすく教えてもらった	2
		楽しかった。10月申請頑張ります	2
		レポートの取り組み道が見えた	1
参加して得るものが多く、頑張ろうという気持ちになった	1	テーマが絞れた	1
		レポートの書き方、自分の考えをまとめることができた	1
レポート作成の具体的な方法を学べ、不安な気持ちが解消できた	1	学ぶことがない分野の学びとであったので興味深かった	1
レポートの書き方・方法を他のレポート作成にいかしたい	1	看護観が見なおせた	1
次回までにアウトライン、文献を探したい	1	もっと講義的な学習をしてほしかった	1
テーマが漠然としていて、絞り込めなかった	1	1つの部屋でのグループワークは他グループの声が気になり集中しにくかった	1
レポートが仕上がるか不安	1		
参考文献が図書室に少なかった	1	「学士への途」を読むのも講座に入っていればわかりやすい	1
受講料がリーズナブルなら受講者が増えるのかな	1	レポートの書き方の講義にもう少し時間を取り、グループワークはStep2のみでよかった	1

資 料



研究・教育・国際
京都大学

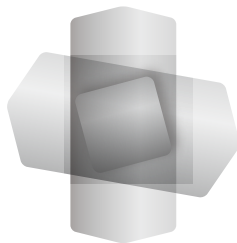
2015年度

京都大学看護教育研修センター 看護キャリア開発事業

「看護研究支援」研修

ごあんない

研究の「技」を学び、より発展させる



担当事務・問い合わせ

京都大学看護教育研修センター
看護キャリア開発事業担当

TEL&FAX: 075-574-4133

E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp

T 607-8175 京都市山科区大宅山田町34
※9:00~17:00(土・日・祝日は除く)

資料1

看護職各位

京都橘大学看護キャリア開発事業 看護研究支援のご案内

本学では、2012年度から看護キャリア開発事業を始めました。

皆様は、各所属部署で研究担当となり、試行錯誤しながら何とか研究を進めてまとめ、発表するというプロセスを何度も経験されていらっしゃるでしょう。しかし、その成果に満足するということまでは至っていないのも事実ではないでしょうか。自分(達)の研究テーマにピッタリな研究方法がないのか、あるいは研究の力をつけたいと、研究に関する研修の機会があれば受講するという形で努力されていたと思います。

研究は、いくら机上で学習しても身につけることはできません。研究をするためには、それなりの「技」が必要です。研究者はその「技」を持っています。また、その「技」は、研究の実践により応用され創造されていきます。自分(達)のテーマに沿って、研究の「技」を学び、現より満足が出来る研究を進めてみませんか。

そこで、2014年度までに「ベシックスコース」を受講された方は「プラクティスコース」で、「プラクティスコース」を受講された方は「アドバンスコース」で、各自のテーマに沿って研究プロセスで使う「技」を学びましょう。また、次年度研究を担当する方は、「ベシックスコース」を受講して準備を進め、担当になったら、研究テーマの選択・見極めから一歩ずつ、研究者の手ほどきを受けて進めるという計画を立てましょう。研究力は、すぐに養われるものではありません。本事業は、現在より少し時間をかけて計画的に系統的に学習するプログラムとなっております。また、2014年度から、各施設や部署で研究の指導・支援を担当される方のために「院内研究指導者コース」を開催しております。開催時期は2月ですので、次年度にむけた準備学習として、研究の基礎を再確認し、各施設における指導・支援の糸口を見つけるプログラムです。各プログラムの詳細や参加費等は、次ページ以降をご覧ください。皆様の受講を、心よりお待ちしております。

京都橘大学看護教育研修センター

研究のねらい 研究を行う準備段階で、看護研究の基礎を学び、実際の研究の土台とする研修プログラムです。

研修の対象 研究の初心者

研修の申込 大学の前期講への参加申し込み、施設への講師派遣の申し込みが可能です。学習項目を選択して受講することも可能です。

ベーシック
コース

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月21日(火)	14:45～16:15	1) 現場における研究の意義	①研究の意義 ②研究プロセスと構造 ③研究論文の構成と種類	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月9日(火)	14:45～16:15	2) 研究チームの形成と研究の計画	①研究チームの形成と研究の計画 ②研究チームの役割と責任	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月7日(火)	14:45～16:15	3) 文獻検索	①文獻検索の意義 ②文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	①～④文獻検索は、原則として、講義通達の場でも京大看護大学内で実施します。
4	7月21日(火)	14:45～16:15	4) 文獻調査	①文獻調査の意義 ②文獻調査の方法	講義	20名	20名	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	・施設45日は、地方を希望する場合は、別途交通費がかかります。
5	8月4日(火)	14:45～16:15	5) 文獻調査	①文獻調査の意義 ②文獻調査の方法	講義	12,000円	12,000円	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	・施設45日は、地方を希望する場合は、別途交通費がかかります。
6	9月18日(火)	14:45～16:15	6) 研究倫理と研究計画書の作成	①研究倫理と研究計画書の作成 ②研究倫理と研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	10月6日(火)	14:45～16:15	7) 研究のまとめと発表	①研究のまとめと発表 ②研究のまとめと発表	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

ブランク
コース

研究のねらい 個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、院内発表を行うレベルの研修プログラムです。

研修の対象 対象者です。

研修の申込 個別の申し込み、施設経由での申し込みが可能です。

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月21日(火)	14:45～16:15	1) 研究チームの形成	①日常の疑問から研究チームの形成 ②研究チームの役割と責任	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月9日(火)	14:45～16:15	2) 文獻検索・レビュー	①文獻検索の意義 ②文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月7日(火)	14:45～16:15	3) 研究デザイン・方法	①研究デザインの意義 ②研究デザインの方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
4	7月21日(火)	14:45～16:15	4) 研究における倫理と計画	①研究倫理と研究計画書の作成 ②研究倫理と研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
5	8月4日(火)	14:45～16:15	5) 研究計画書の作成	①研究計画書の作成 ②研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
6	9月18日(火)	14:45～16:15	6) 研究データの収集	①研究データの収集 ②研究データの収集	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	10月6日(火)	14:45～16:15	7) データの分析	①データの分析 ②データの分析	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
8	10月20日(火)	14:45～16:15	8) 研究発表	①研究発表 ②研究発表	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

希望年度に引き続き受講を希望される場合は、希望年度に申し込みが必要です。

研究のねらい 個別のテーマに基づいて、専門的な指導・支援を受けて実際に研究を行い、院内発表を行うレベルの研修プログラムです。

研修の対象 対象者です。

研修の申込 個別の申し込み、施設経由での申し込みが可能です。

アドバンス
コース

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月21日(火)	14:45～16:15	1) 研究チームの形成	①研究チームの形成 ②研究チームの役割と責任	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月9日(火)	14:45～16:15	2) 文獻検索	①文獻検索の意義 ②文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月7日(火)	14:45～16:15	3) 研究倫理と研究計画書の作成	①研究倫理と研究計画書の作成 ②研究倫理と研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
4	7月21日(火)	14:45～16:15	4) 研究計画書の作成	①研究計画書の作成 ②研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
5	8月4日(火)	14:45～16:15	5) 研究データの収集	①研究データの収集 ②研究データの収集	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
6	9月18日(火)	14:45～16:15	6) データの分析	①データの分析 ②データの分析	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	10月6日(火)	14:45～16:15	7) 研究発表	①研究発表 ②研究発表	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

院内研究
指導者コース

研究のねらい 希望年度に引き続き受講を希望される場合は、希望年度に申し込みが必要です。

研修の対象 対象者です。

研修の申込 個別の申し込み、施設経由での申し込みが可能です。

回数	開催時期	時間	学習項目	学習内容	形態	担当	定員	受講料	受講料	備考
1	5月21日(火)	14:45～16:15	1) 研究チームの形成	①研究チームの形成 ②研究チームの役割と責任	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
2	6月9日(火)	14:45～16:15	2) 文獻検索	①文獻検索の意義 ②文獻検索の方法	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
3	7月7日(火)	14:45～16:15	3) 研究倫理と研究計画書の作成	①研究倫理と研究計画書の作成 ②研究倫理と研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
4	7月21日(火)	14:45～16:15	4) 研究計画書の作成	①研究計画書の作成 ②研究計画書の作成	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
5	8月4日(火)	14:45～16:15	5) 研究データの収集	①研究データの収集 ②研究データの収集	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
6	9月18日(火)	14:45～16:15	6) データの分析	①データの分析 ②データの分析	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	
7	10月6日(火)	14:45～16:15	7) 研究発表	①研究発表 ②研究発表	講義	1人	1人	50,000円 (施設交通費)	50,000円 (施設交通費)	

希望年度に引き続き受講を希望される場合は、希望年度に申し込みが必要です。

お申込みに関して

・受講申込は、個人でも施設経由でも可能です。
・施設経由の場合は講師の施設派遣も可能です。ただし受講料とは別に交通費として実費相当額(大学から施設までの交通費。タクシー利用の場合は往復タクシー料金等)をお支払いいただきます。
・なお、施設への講師派遣の場合、別途契約書を締結させていただきます。
・原則として、納入された受講料金はお返しいたしません。
・申込月曜日に必要事項をご記入の上、郵送、Fax、E-mailにて担当事務宛へお送りください。
・受講料金は、受講申込後、担当事務より支払方法をご案内いたします。
・随時受け付けいたしますが、**定員になり次第、締め切ります。**
まずはお問い合わせください。

資料2

1. 研修内容、開催日時

回	研修内容	開催日時
1	＊情報機他のフイジカルアセスメントと看護	5月23日(土) 10:00-16:00
2	＊呼吸機他のフイジカルアセスメントと看護	6月20日(土) 10:00-16:00
3	＊人工呼吸器装着時のフイジカルアセスメントと看護	7月26日(日) 10:00-16:00

2. 参加費 卒業生：1人1回2,000円 是非弁当付

3. 参加定員 1回20名

4. 申込期間、申込方法

申込期間：随時受付（定員になり次第、締め切ります。）

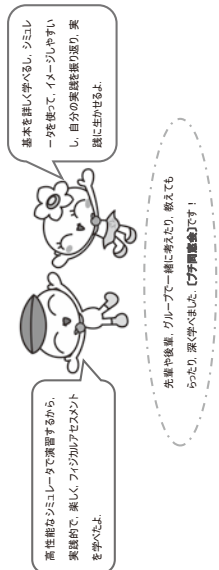
申込方法：①E-mail、Fax、または郵送

・別紙「**「た**ちばなSIM」2015」申込用紙に必要事項をご記入の上、E-mail、Fax、または郵送にて、下記宛お申し込みください。

・受講料金は、受講申込後担当事務より支払い方法をご案内いたします。

申し込み・問い合わせ先
京都橋大学 看護教育研修センター
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
E-mail：academio@tachibana-u.ac.jp
TEL&FAX：075-574-4133

※ 参加証受領後欠席する場合は、必ず前日までに上記宛にご連絡ください。



京都橋大学看護教育研修センター
所長 遠藤 俊子

京都橋大学看護キャリア開発事業－『**「た**ちばなSIM 2015』のご案内

本学では、2012年度から看護キャリア開発事業を開始し、本学部の卒業生に貢献する事業として「シミュレーション教育」を開催しています。2015年度からは、名称を「Skills Lab」から「**「た**ちばなSIM」」に変わります。SIMとは、「simulation」の略で、学び舎・京都橋大学でシミュレーション(模擬患者)を用いて、実践に即した看護を学習する機会・場としたいという思いからです。今までに研修に参加した卒業生は、知識や技術の基本を事練し、多くの施設で働く仲間(先輩や後輩)から学び、各自の看護実践を見つめ直し、自信を持つ機会とされています。また、臨床では聞きにくいこともありますが、この研修ではわかりやすく簡潔に知識を獲得し、その使い方を学ぶことができます。そして、その学びを現場で実際に活用して看護をしているということ、シミュレーションを用いて看護を実践し、失敗しても、十分な時間をかけて実践を振り返り、繰り返し学べます。このように体を動かしながら学ぶことが、その学びを現場に活かす原動力になっています。

『**「た**ちばなSIM』の特徴は、単独の技術(Skill)を習得するだけでなく、対象に適切な看護を提供できるよう、**アセスメントを学び看護実践力の強化・向上を目的**としています。

看護実践力は、在学中を含め卒業後の継続した看護経験や学習により養われるものです。卒業生の学習を支援するのは、大学の使命です。『**「た**ちばなSIM』は、個人が、看護の基本をしっかりと学習し、日々の看護実践に生かすことができるよう、教育の専門機関としての教育力を生かした継続教育です。所属施設で行われる研修を補完する学習と位置づけられます。

2015年度は、新人看護士にも対象を広げて開催します。看護経験の多寡に関わらず、1期生から6期生が協力しながら、切磋琢磨して学び、看護職としてさまざまな状況・場面に応用できる基本的な知識・技術・態度を学びましょう。6期生(新人)は、初めて経験するような場面から始め、1～5期生(先輩)は、積み重ねた看護経験や個人々々の問題意識(モチベーション)によって学びの内容が変わります。したがって、前回受講された方も、再度受講し学習されることをおすすめします。

担当教員は、卒業生が《人によりそう》看護をめざして日々努力され、学習されている姿に励まされています。よりよい研修プログラム内容や指導方法の開発のために、卒業生の協力を得て研究に取り組んでいます。2015年度も皆さんの協力を得ながら、研究を継続し成果を発信していきたいと考えています。また、2015年度は先輩・後輩が気軽に交流できる時間と場も設けます。所属施設での研修にプラスして、学んでみませんか、皆様の参加を、心よりお待ちしております。

資料3

2015 年度 看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポーター講座

京都橋大学看護教育研修センター

京都橋大学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修生として修了された皆さんが、大学評価・学位授与機構に学位申請をされる際に学修成果レポートの提出が必要ですが、

学修レポート作成において、何を書こうか、どのように進めていったらよいかなど、不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。そのような方々をサポートする講座を開催いたします。

この講座は、学修レポート作成のスタートを応援するものです。個人指導ではなく、グループ演習が中心です。学位申請という同じ志をもつ人が互いに支えあうネットワークを作ってください。そして、受講後は、互いに支えあって学修レポート作成に取り組んでください。

【受講対象者】

原則として、本学の科目等履修生「看護学コース」を修了された方で、2015 年 10 月期申請または 2016 年 4 月期申請を予定されている方。

※ 単修単位があり、2015 年度に在籍期間延長予定で本講座の受講を希望される方は、事前に連絡指導者にお問い合わせください。
TEL: 075-574-4335※9: 00~17: 00(土・日・祝日は除く) E-mail: admin@tachibana-school.jp

【プログラム】

STEP1：《テーマを絞る》		
10:45～12:15	論理的思考について(講義)	講師：京都橋学園理事長
13:00～16:15 (休憩 15 分含)	レポート作成にむけたグループ指導(演習)	
STEP2：《レポートのアウトラインの作成》		
13:00～16:15 (休憩 15 分含)	レポート作成にむけたグループ指導(演習)	講師：京都橋大学教員

※ 受講前に、学位授与申請案内『新しい学士への道』を確認してください。
レポートの形式等について記載されています。
※ 学位申請に関する手続き等については、大学評価・学位授与機構に問い合わせてください。

【日数】

以下の 2 セットを開催します。A 日程か B 日程のいずれか一方を選んでください。
※ 2 セットの受講はできません。

	STEP1	STEP2	定員	開催場所
A 日程	2015 年 5 月 19 日(火)	2015 年 6 月 16 日(火)	先着 20 名	京都橋大学
B 日程	2015 年 5 月 28 日(木)	2015 年 7 月 2 日(木)	先着 20 名	

【受講料】

STEP1 のみ	15,000 円	※ STEP2 のみの申込はできません。
STEP1 と STEP2	30,000 円	

【お申し込み・お問い合わせ】
申込期間：2015 年 3 月 9 日（月）～2015 年 4 月 30 日（木）※期間内必着
申込方法：別紙の申込用紙に必要事項をご記入の上、E-mail、FAX、または郵送にて下記までお申し込みください。申込受付後に振込用紙を郵送いたします。

京都橋大学 看護教育研修センター
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp
TEL&FAX: 075-574-4133 ※9:00～17:00(土・日・祝日は除く)

京都橘大学看護教育研修センター 年報2015

発 行：2016年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/